

職員一丸となった業務の推進

「付知営林署の一年」

付知営林署 庶務係 早川 太鶴

1. はじめに

付知営林署における平成4年度の業務方針の一つに、地域社会との連帯強化を掲げています。私の町は国有林の中に護山神社の奥社があって、木の神様への信仰も深く、林業・木材業が深く町民生活の中に入り込んでおります。かつては親が国有林に努めているという子供が学校のクラスに10人くらいはいました。

私は小さい頃は営林署に入る事が誇りであり夢でした。今、国有林は財政的な事情もあって非常に苦しい立場に立たされていますが国有林ばかりでなく林業そのものが、私の町のような山国の町でさえも忘れられようとしています。

そんな状況の中、まず地域の人達に私達の仕事を知って貰うと同時に少しでも収入の確保に努めたいと、各種イベントや行事を実施しましたので、その状況について一年を振り返り発表します。

2. 実施内容

(1) 付知町主催の「産業祭」に営林署コーナー「森の市」を開催

この「森の市」は、当初営林署だけが貯木場の片隅で、打出木や末木を集め地域住民を対象に販売しておりましたが、国道257号線のバイパス完成と付知町「花街道センター」の完成に合わせ、付知町「産業祭」の中の「森の市」として地元木材業界とも歩調を合わせ実施しています。今年は春の「産業祭」と夏の「サマーフェスティバル」に「森の市」を実施しました。

春は、山菜の王様タラの芽を目玉として出品したところ飛ぶように売れ、一時間程でなくなりました。付知には山菜が少なく、採集には非常に苦労しました。

私達女性群はパックに詰める役を受け持ちました。打出木の収集、肩たたき・帽子掛けの収集、化粧、水苔の採集等実行委員会で決め、皆が分担して作業を行いました。

夏の「サマーフェスティバル」は、子供向けに木工教室を開きました。竹トンボやカナリヤ笛を作りながら微笑ましい親子のふれあいが見られました。この時はネジ花等山野草を竹の鉢にうえ販売しました。売れ残った山野草は、庁舎清掃用にと雑巾をいただいたお返しに地域の

婦人会にプレゼントしたところ非常に喜んでくれました。

また、花街道センターに分収育林のPRコーナーのほか森林の働きや治山・治水等のPRコーナーを約1ヶ月半展示し、訪れる人達に見て貰いました。

この「森の市」の名古屋版は、支局ウッドランドでも実施しました。あまり立派な手のかかるものはできませんが、これからも工夫をしながら続けたいと思っております。

(2) 植樹祭

営林署の伝統となった「植樹祭」、そして職員手作りのブタ汁もすっかり定着し、名物になっています。

今年は天候にも恵まれ、署の行事として全職員が役割をもち、苦勞して地拵えもしました。地域の方々や学生さんには1本1本丁寧に心をこめて植えていただき、本当に盛り上がった植樹祭となりました。

こうしたイベントを通じて緑の大切さとか国有林を理解して戴けたら本当によいと思います。同じ頃職員の植樹祭として署内職員が土捨場の緑化を実施しました。私の植えたヒノキも枯れないでスクスクと育っています。これも林道に一番近い所を遊ばせておくのは忍び難くヒノキを植えたものです。

(3) 森林教室

地元の小学生を対象に「森林教室」を開催しました。これも毎年恒例となってきています。また中学校では地元の産業として作業場見学をしましたので、貯木場を案内し木材の利用や木材が地元の産業にどう役立っているかを教えました。

(4) 林道の日

付知峡自然休養林は入込者も多く、林道維持には気を配っておりますが、皆の使用する林道は皆で整備しようと、道路沿いの草刈りを職員や各事業体に呼び掛け実施しました。この時は中津川市の専門学校の学生も応援にきてくれました。暑い一日でしたが、終わった後は見通しがきいて、気持ちよく通行できる林道となりました。

(5) 4S運動

これは安全活動の一環としてばかりでなく、心の中の整理・清潔をも願って実施しています。事業の実行、日頃の行動、書類の整理について、すべて整理・整頓・清潔をモットーとしてやろうという意味です。

(6) 「優良国産材フェア」

いつもの素材公売と少し趣向を変え、一本売りを多くして机上総額入札としました。口数は151口と多くなりましたが、非常に熱気のある公売となり、ハッピー姿の私も熱気に圧倒されながら公売に参加させていただきました。

収入の確保は業務方針の第一の目標ですが、市況も低迷している中で工夫をしながら、何とか確保できる状況です。

また今年の特別増収対策も春早々から宝の山はないものかと、山菜や水苔の傍ら土埋気や根株の情報を持ち寄り販売会議にかけました。ようやくその目途も12月下旬についたところ です。

3. まとめ

地域の中の営林署は、かつてなくてはならない存在でしたが、林業の衰退と並行して人々の頭から忘れられかけようとしています。今地球環境問題等で森や緑の大切さが見直されています。治山・治水が国民生活を支えているということをまず私達が理解し、山間の地域との連帯を強化していくことが、川上から川下の人達へ、そして国民へと広がって行くものと思います。